

新春座談会2016

新春座談会2016

深谷市長×市内高校生座談会

市内に5校ある高校では勉強や部活動、資格取得などそれぞれ特色ある活動を行っています。改正公職選挙法が公布され平成28年6月からは、18歳から投票できるようになります。今月は、これから選挙に参加し、市政にも積極的に参加をすることになる高校生に、小島市長がお話しを伺いました。



▲平成28年の目標となる前向きな言葉を色紙に記入していただきました

高校生に聞く
深谷のイメージ

小島市長 皆さん本日はよろしくお願ひします。

深谷市には、5つの高校がありますが、最近「深谷の高校はすごい」、そんな声をよく耳にします。どの高校も多方面で活躍しているの、特に市外のかたから良い評判を聞き、うれしく感じています。そんな高校を代表してお集まりいただいた皆さんにお聞きします。今の深谷をどのように思うかを教えてください。

水越さん 深谷市は全国でも有名な農産物の産地なので、おいしい野菜を新鮮な状態で食べられます。住むには、本当に環境のいい場所だと思います。

中武さん 私もやはり、深谷ねぎをはじめとした多くの農産物の生産が盛んで、地産地消を目指す素晴らしい市だと思います。

鈴木さん 実は私は、ネギがあまり好きではないのですが、深谷ねぎだけは食べることがあります。

小島市長 深谷ねぎは甘くておいしいからね。

鈴木さん あとは、深谷は豊かな

自然も魅力です。

福島さん 私が深谷市に住んでいて、いい所としてまず一番最初に思うのが、住んでいる人同士の「人情の厚さ」ですね。

金澤さん 私は市外に住んでいますが、深谷市の「ふっかちゃん横丁」などの街中のにぎわいや、ゆるキャラプランプリの応援体制がすごく感じています。

将来の深谷の姿
若い声から変えたい

小島市長 皆さんの言う通り、深谷っていいところがたくさんあり



ますよね。今度は深谷市がこういう風になつたらいいなというところがあればお聞かせください。

水越さん 私は、毎年、深谷まつりに参加していますが、『深谷を盛り上げたい』という気持ちは地域のみなが共通して持っています。

す。その気持ちをもっと広め、盛り上げていきたいです。

小島市長 私もイベントは好きなので、ぜひ一緒に盛り上げていきたいですね。

水越さん 盛り上がった深谷を見て、特に市外の方が、『深谷ってすごいな』と思えるまちになっていくってほしいです。

小島市長 そうですよね。ただ、併せて考えているのが財政のことです。イベントも方法を変えたり、参加者の皆さんと一緒に知恵を絞って、支出を減らしていきたいです。

深谷高校
みずこしゅうみ
水越侑美さん
深谷地区在住・高校2年生

深谷高校は『文武両道』の校風が強く表れた高校です。特にバレーボール部、ラグビー部は強豪校で有名です。生徒全員が勉強、部活に行事にと全力で取り組んでいるのが自慢ですね。



金澤さん 私は、子どもや障害者を持ったかたが安全に遊べる場所が少ないというのを感じました。市街地は交通量も多いので、子どもからお年寄りまで、安全に過ごすことのできるまちになってほしいです。

小島市長 金澤さんが言う通り、安全に過ごすことのできるまちづくりは、やはり行政の原点なんです。行政の1番の役割は、「市民の命と暮らしを守ること」なんです。市の収入は減っていますが医療や福祉など命に関わるものにつ

東京成徳深谷高校
かなざわまさや
金澤雅也さん
上里町在住・高校3年生

東京成徳深谷高校は、県内でも数少ない保育科が設置されており、保育士や幼稚園教諭を目指す特色ある学校です。実は、自分も含め学科の同級生の男子は2人だけなんです。



いては最優先に考えています。
鈴木さん 私は、深谷市の農業が全国的に見ても素晴らしいものなので、これからも大切にしていきたいです。

小島市長 私も、深谷市にとって農業は、基幹産業であると思っています。

今、市が進めている花園IC拠点整備プロジェクトも、それ自体が「目的」ではなくて、深谷市の農業や、県北・秩父地域の観光をPRする「手段」だと考えています。そこに人を集め、効果的に深谷市の農業や県北・秩父地域の観光情報を発信するのが目的です。

鈴木さん 私が育った岡部地区も、ブロッコリーをはじめ、農業がとても盛んですので、そうした手段で今まで以上にPRできるようにしたいですね。

小島市長 特に冬場はブロッコリーがおいしいですよね。これからもっとPRできるようにしていきたいですね。

中武さん 私は、深谷市が「選ばれる市」になってほしいと思っています。

いますが、一度、市を離れた人が振り返った時に、『深谷に戻って技術・知識を生かしたい。』と思



正智深谷高校
中武真聖さん
熊谷市在住・高校3年生

正智深谷高校は仏教精神に基づく学校です。私たちは礼儀正しい、優しく勇気ある人を目指して勉学や部活に励んでいます。サッカーやバスケットボールなどは全国大会に出場しています。

えるまちづくりをしてほしいと思います。

小島市長 子どもたちが、東京で勉強したり、海外で活躍したり、自分の思ったことはぜひやってほしいと願っていますが、最後は深谷に戻ってきてほしいと思っています。

市でも、若い人が子育てをしやすいように、子育て支援センターの充実などさまざまな支援をして

います。

福島さん 私は、もしも災害が起きた時も安心することのできるまちになってほしいです。関東でも近い将来、大きな地震が来るといわれているので、それに備えた対策を行い、市民一人ひとりの防災意識を高める、意識づくりをしてほしいと思います。

小島市長 『災害はいつ来るかわからない』とよくいわれます。

災害時には、自衛隊や警察が動いたり、もちろん市役所の職員も動きます。しかし、大きな災害が起きた時、実は、何よりも大きな力となるのは地域の助け合いです。いざという時に頼りになる家族や仲間がいる場所をぜひ大事にしてほしいと思います。

また、市では、自治会にご協力いただき、援護の必要なかたのお住まいを地図に示した『地域支え合いマップ』を作成しています。

**18歳から投票へ
高校生の政治のイメージ**

小島市長 多くのご意見ありがとうございます。皆さんの話しいただいたことは、それぞれ今の深谷市の現状をよく捉えているも

が今政治の世界にいるかということ、なによりも『深谷が好き』だからなんです。皆さんの学校にもある生徒会の役割と同じで、時間や労力の対価に何かを達成した時に、人がとても喜んでくれるので

す。その時の充実感が政治に対する印象を変えました。一般に思われてしまっている、政治のイメージを変えるためにもこれまで以上に頑張っていきます。投票まで1年を切っていますが



深谷第一高校
福島真由さん
深谷地区在住・高校2年生



深谷第一高校は緑あふれ野鳥も飛来する自然豊かな高校です。また、他校生徒との意見交換や講演会、プレゼンテーションなどを通し、キャリア意識や学力を向上させる取り組みも行っています。

のだと思います。また、市では人口減少や税収減少といった課題にも直面しています。その中で、皆さんも話していただいた、まちづくり、農業や商工業の発展や防災などそれぞれの課題を解決するための方向性を決めていかなければなりません。その方向性を決めるのがこれから、皆さんも参加することになる『選挙』です。

今回、公職選挙法が改正されて、選挙権が18歳に引き下げとなりました。これからは、皆さんの意見も、投票結果に反映されるように

なります。ただ、全部が初めてのことになるので、まずは選挙に対して、どんなイメージを持っているか聞かせてください。

水越さん 投票所に行き、投票をするという経験が無いので、まだまだ、イメージ自体が湧かないのが正直な気持ちです。

中武さん 今の時点で投票に臨むには、高校生の私たちに知識が足りなさすぎるように感じます。

金澤さん そうですね、知識もそうだし、選挙に関わっている人と、一般の有権者との間の温度差が大きいイメージがあります。

小島市長 私が高校生の頃も、政治や選挙に対しての見方は皆さんとほとんど同じでした。やはり、どこか『違う世界の人』がやっているものというイメージ、テレビやドラマで取り上げられる悪い印象も強くなりました。

福島さん 小島市長のおっしゃる通り、政治や選挙に対して『悪い・汚い』そんなイメージは確かにあります。

小島市長 実際はそうではなくても、テレビなどではそのように取り上げるのがわかりやすいからなのかもしれません。でも、なぜ私

その心構えはできていますか。
鈴木さん 行かなくてはいけないと思っています。今でも若い人の投票率が落ちているのに、私たちが行かないと、将来全く意見が通らないまま、大切なことが決まっていってしまいます。

深谷商業高校
鈴木加奈子さん
岡部地区在住・高校3年生



深谷商業高校は、県内でもトップクラスの資格取得率を誇っています。また、敷地内にある『二層楼』は国の登録有形文化財に登録されていて、ドラマの撮影もよく行われています。

中武さん 議員や首長を選ぶのは選挙での1票。本当に紙1枚から選ばれているんですね。私たちが自分の意見を表すために、大切にしたと思います。

小島市長 11月にマンマードで国政選挙がありました。投票とい

う行動が、生活に直結すると国民が感じたことが大きな動きになったのではないのでしょうか。

しかし、選挙で人を選ぶときに、選挙公報や新聞を見てもその人がどついう風な意見で、どんな考え方をしているのかというのが正直分りづらいですね。

鈴木さん はい。だから、その人がどついう考えを持っているのか、直接会って話してみるのが一番だと思います。

金澤さん 直接話す機会が少ないと、どんどん大きな溝ができてしまっていると思います。やはり、どのようなくとも、情報を早めに発信すると安心することができると思っています。

小島市長 本当にその通りだと思います。今回、皆さんとお話してきたことは、私にとっても良い機会になりました。これからの深谷市にもますます、皆さんのような若い方々の意見が必要となってきます。ぜひ、皆さんの意見を表現する機会だと思って、投票の権利を大事にしてください。

本日はありがとうございました。今後皆さんの活躍をお祈りしています。